

出張報告届

令和 4年 11月 2日

吹田市議会議長様

会派名 自由民主党絆の会

代表者氏名 泉井 智弘

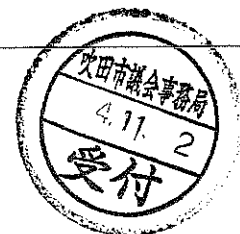
出張者氏名 白石 透

.....
.....
.....
.....
.....

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	名鉄トヨタホテル
期間	令和4年10月27日 から 令和4年10月28日まで2日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	中核市サミット2022in豊田



中核市サミット2022 in 豊田 報告書

～中核市が描く「ミライのその先」～

日程：令和4年10月27日（木）、28日（金）

場所：名鉄トヨタホテル7階

講演者・パネリスト

大澤 正彦氏 日本大学文理学部 助教

次世代社会研究センター長 他

姫路市長・奈良市長・松江市長・岐阜市長・吹田市長・豊田市長

基調講演頂いた日本大学文理学部情報科学科助教、次世代社会研究センター センター長（大澤 正彦氏）の演題「未来の未来を探る～AI・組織・コミュニケーションの視点から～」は自分自身の夢「ドラえもんを本気でつくる！」から話をされ、近年注目のロボットなど、普段は中々触れることのない最先端技術を紹介、「誰でもどこでもつながる社会」「地域を超えた大学地域連携」の実現をめざすなどの内容での講演がなされた。

その後、第1会場の「時代の変化にしなやかに適応する産業のミライ」と、第2会場の「多様なつながりと描く地域共生社会のミライ」

に分かれパネルディスカッションが行われた。パネリストに、豊田市長、岐阜市長、吹田市長が参加しており、私は第2会場を選択させてもらった。

趣旨は【我が国の社会保障制度は、近年の人口構造の変化により、「従来の福祉を超える新しいステージ」を迎えたとされ、地域においては、家庭・学校・職場といった人々の生活領域における支えあいの基盤が弱まり、社会的に孤立する人や、制度の狭間の課題や複合課題が顕在化しています。

こういった社会構造の変化を背景に、「支える側・支えられる側」といった従来の関係を超えて、地域のあらゆる住民が役割を持ち、助け合いながら暮らしていく「地域共生社会」の実現に向けて、各市でも様々な取組が進められています。

一方、新しいテクノロジーやイノベーションの創出は急速に進み、年齢、性別、障がいの有無などに関係なくシームレスな生活が送ることができ、さらには「地域」という枠を超えたつながりを持つことが容易となるミライが現実のものとなりつつあります。また、昨今のコロナ禍は、従来の「人々のつながり」や「地域」の概念が変わりつつあることを実感するきっかけにもなりました。

本パネルディスカッションでは、中核市の先進的な取組を共有し、社会の変化に伴って生じる課題と、多様なつながりから生まれるこれからの可能性の両面から、「地域共生社会」のミライのその先をどのように描くべきか、議論を深める。】とされています。

豊田市では誰ひとり取り残さない包括的な支援体制の構築、岐阜市ではワークダイバシティの推進について、吹田市ではNATSなどについての取組が紹介された。

最後に以下の中核市サミット豊田宣言2022が採択されて終了した。

【中核市は、地域の中核都市として、地方分権の推進と地域の発展に大きな役割を果たしてきました。

デジタル化や脱炭素といった変革とイノベーションの進展による新たな手法や価値が創出され続ける中、私たち中核市は、これまで描いてきた「ミライ」の実現に向けて、新たな価値基準への転換を進めるとともに、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていくために、「ミライ」のさらに「その先」を描きなおす、重要な時期を迎えています。

本サミットでは、「多様な主体とつながり、つくり、暮らし楽しむ～中核市が描く『ミライのその先』～」をテーマに、「時代の変化にしなやかに適応する産業のミライ」、「多様なつながりと描く地域共生社会のミライ」に焦点を当てて議論を行い、次のとおり、全国の中核市が連携して取り組むこととしました。

1 産業構造の変革や人口減少などの社会の変化への適応が求められる中、私たち中核市は、多様な主体との連携のもと、新しいモノや考え方や豊かな地域資源を融合しながら、時代の変化にしなやかに適応した「産業のまちづくり」を推進し、持続・発展し続ける産業のミライのその先を目指します。

2 人々の価値観や生活様式が日々変わりつつある中、私たち中核市は、市民の幸せを実現するために、その変化に向き合うとともに、多様な主体の力を重ね合わせ、生かし合うことで、多様なつながりと描く「地域共生社会のまちづくり」を推進し、誰もが幸せを感じながら生きるミライのその先を目指します。

中核市62市の人口は約2275万人となり、全国における存在感と地

方自治の理念の実現に向けた中核市の責任は、今後もより一層大きくなっていきます。

私たち中核市は、それぞれの地域の特性を生かしながら、ともに連携協力して以上の取組を推進し、多様な主体とつながり、時代の変化に適応した持続可能なまちづくりを推進することで、日本の明るい「ミライのその先」を描いていくことを、ここに宣言します。】と結んだ。

翌日の視察では都市エリアコースを選択させてもらったが、トヨタ会館、とよたエコフルタウンを拝見させてもらった。まさにトヨタならではの感じるが、トヨタ自動車の企業展示館、全国初の施設、エコフルタウンは、次世代の先端技術を集約し、持続可能な社会に取組む施設で、自動車燃料システム、住宅など、我々が生活していくうえでの基本となるすべてにおいて、将来を見据えた動きには目を見張るものがあった。個人的には、1民間企業トヨタと関わりを持ち続ける企業城下町だからこそ、可能なのかとを感じる部分もありますが、これをモデルに各自治体独自の路線を敷くべきと感じるサミットであった。